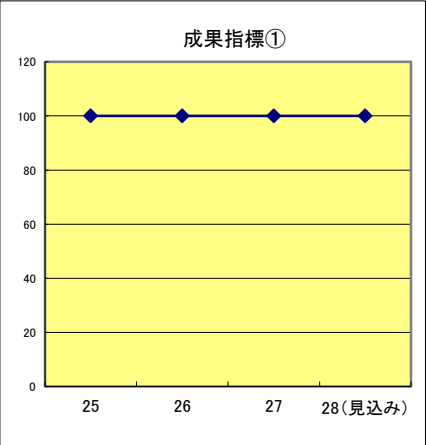
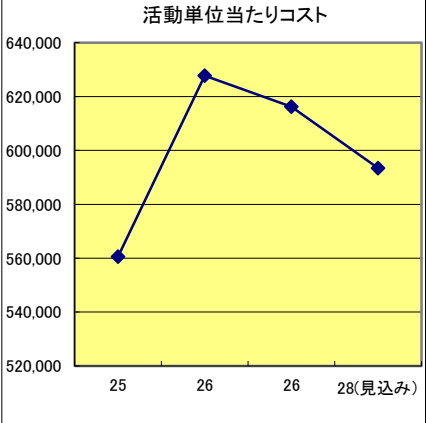


事務事業名			休日急病診療所運営事業		予 算 科 目	会計	1	一 般 会 計	
						款	4	衛生費	
						項	1	保健衛生費	
						目	5	休日急病診療所運営費	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち		事業	1	休日急病診療所運営		
	施策(節)	1	保健・医療						
	施策の方向	(4)	医療体制の充実						
関連する計画等			大阪府保健医療計画		作成部署	保健福祉部保険健康室健康増進課			
					(連絡先)	072 - 956 - 1000 内線 5150			
事業の概要 (目的・内容)			羽曳野市立休日急病診療所（保健センター2階）において実施。 診療日：日曜日・祝日・年末年始 診療時間：午前10時～12時及び午後1時～4時 診療科目：内科・小児科・歯科						
根拠法令等									
事業期間			☒ 10年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☐ 5年未満（平成 年度開始）						
事業開始時から の状況変化			昭和62年6月に当初開設場所（野々上）から現在の保健センター内に移設する。 また同時に歯科診療を開始する。						
実施手法			☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委 託 先			☐ 市外郭団体委託 名称()				委託内容		医療・歯科診療・レセプト業務
			☐ 民間委託 ☒ その他						

区 分		25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	28年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		37,539	41,604	40,698	39,915
人件費【2】 (千円)		2,260	2,966	3,055	2,215
職員数	正規職員	0.30 人	0.40 人	0.40 人	0.30 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託員	0.00 人	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.10 人	0.10 人	0.00 人	0.00 人
	非常勤職員	人	人	0.10 人	0.00 人
超過勤務(参考) (時間)		0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費【(1)+(2)】【A】 (千円)		39,799	44,570	43,753	42,130
財源内訳	国庫支出金 (千円)				
	府支出金 (千円)				
	市債 (千円)				
	その他 (使用料・手数料等) (千円)	15,278	23,339	17,663	15,506
	一般財源【B】 (千円)	24,521	21,231	26,090	26,624
活動指標 (事業の活動実績)【C】 単位		25年度	26年度	27年度	28年度 (見込み)
① 診療日数	日	71	71	71	71
②					
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①)		560,549 円	627,744 円	616,244 円	593,375 円
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】①)		345,366 円	299,025 円	367,469 円	374,980 円
市民1人当たりコスト (【A】÷人口)		342 円	386 円	382 円	370 円
一般財源【B】の推移 (前年度比)			▲ 13.4 %	22.9 %	2.0 %
※前年度比5%以上変動している 要因 (該当する場合のみ✓)		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 5. その他(☒ 2. 左記 ☐ 4. 国庫			
※該当項目すべてに✓					



成 果 指 標 (事業の達成度 を測る指標)	指標名		単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
	① 休日診療の確保率 (式又は説明) 診療日数÷休日×100	目標	%	100	100	100	達成率(%) 100
				100	100	100	100.0%
	② 外来患者数 (式又は説明)	目標	人	1,300	1,300	1,300	達成率(%) 1,300
				2,069	2,552	2,101	161.6%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価 必要性
	1 法令上の義務	2 受益者が不特定多数	3 最低限の生活水準を確保	4 市民の不安を解消	5 社会的経済的弱者を対象	6 民間だけでは負担しきれない	7 民間だけでは供給不足	8 市の特色等を市内外へ発信	9 第三者にも受益がある	有
		○		○		○	○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	休日における初期救急医療体制を確保することは、市民の安心と健康を確保するうえで重要な事業である。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	医師不足という状況で、医師会・歯科医師会・薬剤師会の協力の下、医師等の輪番による出務により、安定的、効率的に診療体制を確保している。今後、救急医療対策への財政負担の増加が予想されるため、効率的な運営を近隣市とともに検討する必要がある。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☐	☒	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☒	☐	☐	休日急病診療所運営委員会を設置し、市民意見の反映を行っている。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	休日における診療は、市民の安心と健康を確保するうえで重要な事業である。
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☐	☒	☐	昨年度に比べ、受診者数が減ったため。

担当部局評価	総合評価	
	☐ 継続 ☒ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 (概ね現行どおり継続して実施) (実施方法の改善を検討する) (事業規模の縮小を検討する) (廃止・休止を検討する)	
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)	
	今後、休日急病診療所の広域的運営等による効率的な運営のあり方を近隣市とともに検討する。	
行革本部評価	総合評価	評価理由・意見
	☐ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止	